

20130012 (No. 62)

【患者】75歳、男性

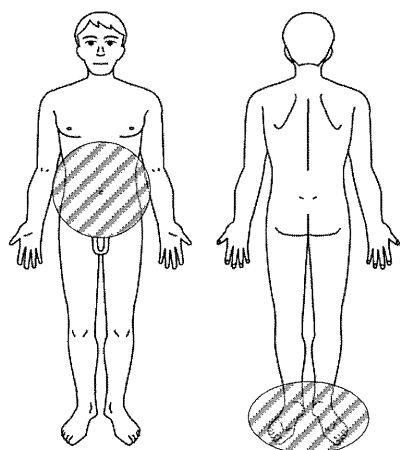
【病態】膀胱癌再発

【ターミナル期】ターミナル前期

【転帰】退院（再入院後、逝去）

【鍼灸治療目的】

膀胱癌再発により、再入院となった。退院後もしびれは継続しており、入院時より軽度悪化が認められたため、足背しびれ、整腸に対し鍼灸治療を依頼された。



【東洋医学的所見】

左足の裏は全部がしびれ、右足の裏は第1～3指がしびれる。17時頃から怠さが増悪する。脈診：沈、腎弦。触診：太溪陥凹、三陰交圧痛、右足三里緊張。腎虚、気虚、血虚、血瘀と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍣鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.6mmを使用。

電子温灸器：e-Qを47±2度×5秒設定にて使用。

使用経穴にはしびれに対し、八風穴、補血目的に三陰交、補腎目的に太溪を使用した。

【総括】

本症例は膀胱摘出後より発症したしびれと、整腸に対して行った。

愁訴に対する鍼灸治療効果は、しびれ：著効、整腸：やや有効とした。その他にも化学療法による全身倦怠感を訴えることもあったが、鍼灸治療後には改善が認められた。

癌に直接関係する痛み、むかつきは医療スタッフに訴えることはあったが、「こっちがしびれるとか、あっちがおかしいとか、しょうもないことを言えるのは、鍼灸の先生にしか言えん。こんな大した事ないこと言っても、迷惑やしな」と医療スタッフに気を使う面も見られた。

脈を始め、舌、爪、皮膚など些細な所見から治療方針を決める鍼灸治療であるからこそ、聞き出す情報が多く、そのため、医療スタッフとは別の信頼を得ることができたのではないかと考える。

この患者もまた、「この人（妻）が倒れたら、かなん。心配なんや」と、訴えられ、院内での家族ケアのための鍼灸治療室ができることを希望されていた。

20130013 (No. 63)

【患者】48歳、女性

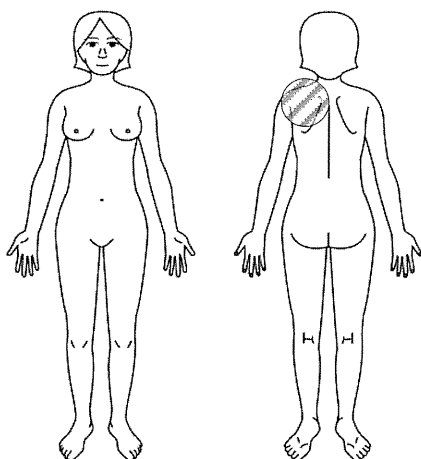
【病態】臍体部癌

【ターミナル期】ターミナル中期～後期

【転帰】逝去

【鍼灸治療目的】

検査をしていないため、不明ではあるが、癌転移による左肩甲間部痛の可能性もあったが、患者自身が服薬量をできるだけ抑えたいという思いから鍼灸治療が依頼された。



【東洋医学的所見】

声小さく、黄疸著明、太溪軟弱、痛みの性質：どこかで引っ張られているような重だるいようなズキズキするような痛み。口渇あり。脈診：虚、腎無力。左手太陽・少陽経絡病、肝血虚、腎気虚と診断された。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍔鍼（補法：金

製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.6mmを使用。

使用経穴には疏通経絡目的に外関、補腎目的に太溪、疼痛局所には理気を目的に使用した。

【総括】

本症例は左肩甲間部痛に対し、鍼灸治療介入した。結果、治療前後では痛みの軽減が認められたが、継続的な効果は得られなかった。患者コメントも考慮し、それらの点から継続的な効果はなかったが、有効と診断した。

しかし、愁訴に対してだけでなく、鍼灸治療中「気持ちがいい」と安心感を与えられていた。この患者は本研究で行っている軽微な刺激を好んでおり「こういう治療ができる場所が分からないし、病院でやってもらえると安心して受けられます」といったコメントがあった。

本症例からは、毫鍼だけでなく、鍔鍼の技術を有し、技術を使い分ける鍼灸師を教育する重要性を痛感した。

20130014 (No. 64)

【患者】78歳、男性

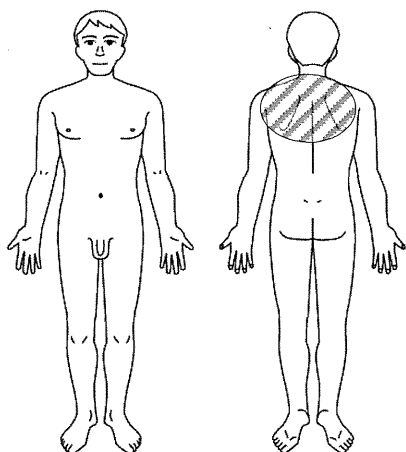
【病態】肺癌（腺癌）

【ターミナル期】ターミナル中期～後期

【転帰】退院

【鍼灸治療目的】

肩背部痛および精神的不安感に対し、鍼灸治療を依頼される。



【東洋医学的所見】

左肩甲間部に重だるい痛みあり。脈診：腎弦、肝渋。下腿細絡。左外関緊張、神門軟弱、左前谷圧痛。左手少陽経絡病、血瘀と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍍鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.6mmを使用。

【患者】93歳、男性

電子温灸器：e-Qを47±2度×5秒設定にて使用。

使用経穴には疏肝目的に三陰交、行間、補腎目的に太溪、寧心目的に心兪を使用した。

【総括】

本症例は、肩背部痛に対して行った。コミュニケーションに限りがあるため、わずかな情報の中で行っていた。

鍼灸治療を過去に経験していたが、「鍼灸は信用していない」と1診目に言われていたが、予定時間を少しでも遅れると「まだこないのか」と看護師に確認されており、楽しみに待たれている姿が見られていた。

鍼灸治療を受けている平日は状態が良いが、休日では呼吸苦や疼痛の訴えが多い印象にある。

また、医療スタッフから「治療後から落ち着いている（痛みを訴えていない）」というコメントからも、愁訴である痛みだけでなく、精神的安定にも効果があったと考え、著効であったと診断した。

20130015 (No. 65)

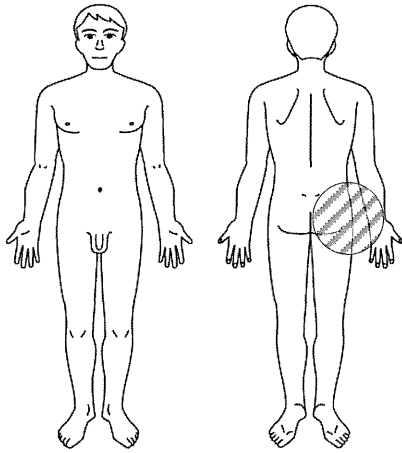
【病態】前立腺癌

【ターミナル期】ターミナル前期

【転帰】退院

【鍼灸治療目的】

転倒後より痛みが続く、右大腿部痛に対して、患者本人からの依頼があり、開始する。



【東洋医学的所見】

脈診：腎無力、触診：右足三里緊張、右足背軽度浮腫。疼痛部位は臥位で圧迫かけても再現されず。膝の屈曲運動にて痛みを訴える。右足陽明経熱感あり。右足陽明経絡病と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径 0.12mm、長さ 15mm（セイリン製 5 分-02 番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍍鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径 0.2mm、長さ 0.6mm を使用。

電子温灸器：e-Q を 47 ± 2 度 $\times 5$ 秒設定にて使用した。

使用経穴には疏通経絡目的に陥谷、

外陥谷、疏肝理気目的に行間、補腎目的に復溜、理気目的に足三里を使用した。

【総括】

本症例は癌性疼痛ではなく、膝痛に対して行った。末梢経穴を使用して治療を行っていたが、患者自身は直接刺して欲しいという希望があったため、一度希望に沿って行った。結果、直後満足感は得られたものの、翌日には痛みは変わらなかったまたは痛みが増したため、再度末梢経穴で行ったところ、改善が認められたことから、著効と診断した。

これらからも、満足度の高い局所治療のみならず、末梢経穴を使用した効果的な治療法ができなくてはならないと考える。

20130016 (No. 66)

【患者】74歳、男性

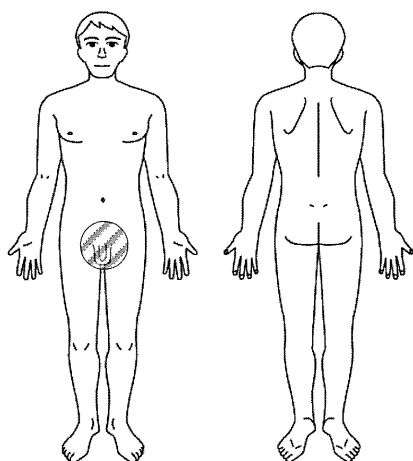
【病態】膀胱癌（全摘）

【ターミナル期】特記なし

【転帰】外来にて継続中

【鍼灸治療目的】

X年9月に退院後、引き続き外来にて経過観察であった。退院後も会陰部痛はあり、消失することはなかった。患者本人の希望により、外来にて鍼灸治療継続となる。



【東洋医学的所見】

脈診：脾・腎弦、肝やや渋。舌診：淡白、白膩苔、舌下静脈怒張。イライラしやすい事から肝胃不和、血瘀と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。通電の場合は直径0.24mm、長さ90mmを使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.6mmを使用。

電子温灸器：e-Qを47±2度×5秒設定に

て使用。

使用経穴には疏肝理気を目的に期門、足三里、三陰交、行間、疏通経絡目的に陰部神経、次髎の通電を使用した。

【総括】

鍼灸治療は、治療前後の状態から疼痛に対して有効と考える。その理由には鍼灸治療前も「常に痛い。今も痛い」と訴えることも多かったが、置鍼中は居眠りしていたことから痛みは緩和していたと考える。

家にいる間は、家人との関係からストレスを感じる事が多々あり、ストレスが強い時は痛みを訴える回数が増えている。そこで、ペインクリニックの受診や、気分転換に何かすることを提案するも、理由をつけて断っているため、指導の面からも難しい症例と感じた。

20130017 (No. 67)

【患者】66歳、女性

【既往歴】卵巣癌術後（不完全手術）

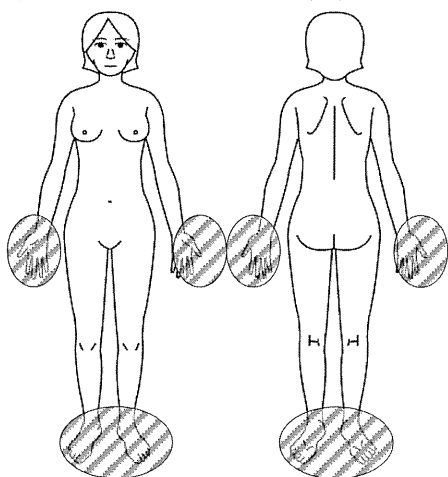
【病態】卵巣癌

【ターミナル期】ターミナル前期

【転帰】外来（のちに緊急入院）

【鍼灸治療目的】

化学療法副作用である手足のしびれに対し、AB法（偽鍼・鍼）を行った。



【東洋医学的所見】

脈診：肝弦、腎微弦、脾洪

食欲：あり。望診：足の爪肥厚

しびれ：指先（手）VAS=72mm、足背 VAS=90mm

掌 VAS=67mm、足底 VAS=85mm

気虚、血虚と診断した。

【治療方法】

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.6mmを使用。

偽鍼：セイリン社製（鍼なし）を使用した。

使用経穴には八風穴、八邪穴、三陰交を使用した。

【総括】

本症例は化学療法副作用によるしびれに対し、円皮鍼（偽鍼と鍼）を用い、八風・八邪穴、三陰交を刺激し、効果の違いを調査した。結果的に、大きな差は認められなかった。治療効果はやや有効とした。

状態悪化に伴い、今までできた事が出来なくなったとストレスを感じていた。

20130018 (No. 68)

【患者】85歳、女性

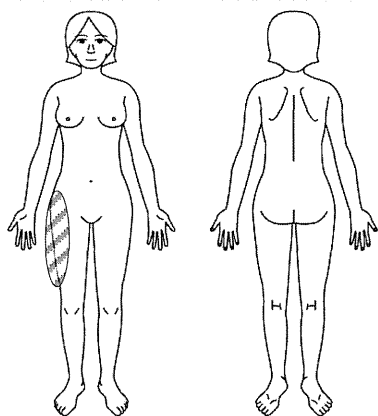
【病態】大腸癌

【ターミナル期】ターミナル中期～後期

【転帰】逝去

【鍼灸治療目的】

転倒により右恥骨と坐骨に骨折を確認。入院中、歩行時の右大腿外側部痛に対して鍼灸治療が依頼される。



【東洋医学的所見】

右股関節外側を中心に大腿にかけての痛みを訴える。右股関節他動時痛あり。自動動作もわずかに可能。足指運動可能、感覚障害なし。ムカつきあり。脈診：72回/分、脾肝渋、腎やや渋、細。舌診：淡白、黄膩苔、乾燥。触診：左胸脇部緊張、全体的に表面軟弱、深部緊張。右内庭圧痛・色素沈着、右外内庭圧痛、右俠溪圧痛、四肢に皮下出血多くみられる。行間発汗・圧痛、左三陰交圧痛。BP：131/78、HR：93reg、BT：37.1度。右足少陽経絡病、肝胃不和（ムカつき）と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とし、体調に合わせて接触するだけの鍡鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.6mmを使用。

使用経穴には陽明経の清熱を目的に行間、内庭、外内庭、俠溪を使用。補腎目的に太溪を使用した。

【総括】

本症例は右大腿外側部痛に対して鍼灸治療を行った。その結果、1診目3時間後にトイレに行った際は痛みを訴えることはなかった。また、リハビリによる筋肉痛の痛みと混合が認められたため、明確に大腿外側部痛を訴えていた状態の評価をもとに、有効と診断した。それ以外の呼吸苦、浮腫に対しては鍼灸治療を行う時間帯には症状がない、ストッキング着用していたため、状態をみることもできなかったため、今回は介入していない。

他方、家人のストレスが非常に強く、治療に行く際には介護に対する不満、医療に対する不満など多くを涙ながらに鍼灸師に語ることが数回あり、同時に「イライラして患者にあたってしまう」「いつ呼ばれるかとゆっくり眠れない」といった相談を受けた。その際、不眠にはこのツボがいいといった指導を行ったところ、「昨日は朝までゆっくり眠れた」と翌日、感謝された。

これらからも、患者のみならず、介護する側のケアの重要性を示唆するケースであった。

20130019 (No. 69)

【患者】78歳、男性

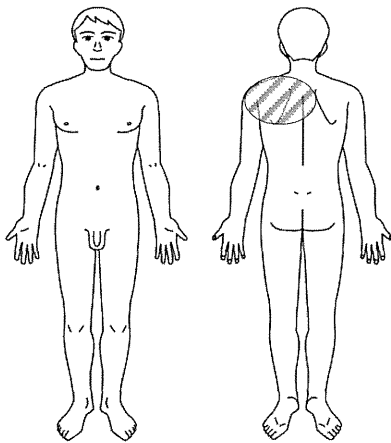
【病態】肺癌（腺癌）

【ターミナル期】ターミナル前期

【転帰】退院（後日再入院 逝去）

【鍼灸治療目的】

精神的不安が強く、一度退院するも、不眠や異常行動が増えたため家族負担が大きく、再入院となった。鍼灸治療を本人が強く希望されたため、不定愁訴に対し介入した。



【東洋医学的所見】

脈診：肝弦、舌診：暗淡白、白膩苔。触診：右神門軟弱、右内関緊張、右腕骨深部硬結、右肺兪軟弱、左神門陥凹発汗。肝血虚、心気虚と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍔鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.6mmを使用。

使用経穴には健脾目的に内関、寧心目的に心兪、神門、疏通経絡目的に腕骨を使用した。

【総括】

本症例はせん妄があり、スタッフに暴力やPCマウスを引きちぎるなどの異常行動があるとのことだったが、鍼灸治療時間には一切認められなかった。

異常行動が夜間に多いということから、18時頃に施術時間を移動するも、異常行動を見かけることはなかった。

異常行動の評価も難しいため、鍼灸治療の効果があったとはいえない。そのため、評価は不明とした。

20130020 (No. 70)

【患者】73歳、男性

【既往歴】特記なし

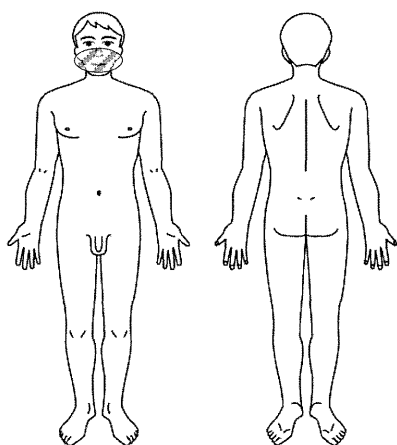
【病態】胃癌 (StageIV)

【ターミナル期】ターミナル前期

【転帰】口内炎に対しての治療を終了

【鍼灸治療目的】

化学療法再開したが、副作用である口内炎が出現。休薬し、回復を待つ。服薬効果により、痛みは治まりつつあるが、口内炎の早期回復を目的に鍼灸治療併用となった。



【東洋医学的所見】

足陽明・厥陰経に熱感あり。脈診：肝弦。

口内炎箇所は口を開けられないことから確認はとれなかったが、唇にただれがあるのは確認が取れた。胃熱と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径 0.12mm、長さ 15mm (セイリン製 5分-02 番鍼) を使用し、刺入深度は切皮程度 (1~4mm) とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍣鍼 (補法：金製、寫法：銀製) を使用した。

20130021 (No. 71)

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径 0.2mm、長さ 0.6mm を使用。

使用経穴には陽明経の清熱を目的に行間、内庭、外内庭、俠溪を使用した。

【総括】

本症例は口内炎に対して鍼灸治療介入したが、介入した時点で回復時期に入っていたため、鍼灸治療効果があったかどうかは不明である。しかし、治療開始してから痛みが悪化することはなかったため、予防的に作用していたのではないかと考える。

【患者】64歳、男性

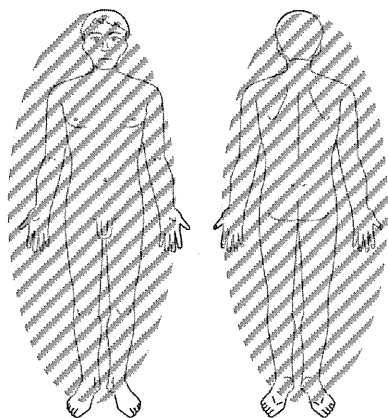
【病態】膵癌 (T4, M0)

【ターミナル期】ターミナル中期

【転帰】逝去

【鍼灸治療目的】

全身倦怠感に対し、鍼灸治療を依頼された。



【東洋医学的所見】

脈診：脾・腎弦、肝無力。舌診：淡白、
胖大、嫩舌。触診：足背浮腫。腎気虚、肝
胃不和と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍣鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.6mmを使用。

電子温灸器：e-Qを47±2度×5秒設定にて使用。

使用経穴には疏肝理気を目的に腹部鍣鍼、健脾を目的に公孫、補腎目的に太溪、疏通経絡目的に後溪を使用した。

【総括】

本症例は病態の進行が早く、患者自身が受け入れる間もなく入院に至った事に対し、強いストレスを感じていた。

そのため、状態悪化に伴う全身倦怠感に対して鍼灸治療を希望されたため、施行した。結果、NRSの変化では大きく変化は認められなかったが、介入前後で比較した結果、睡眠時間が増えていることから効果があったと考える。

20130022 (No. 72)

【患者】73歳、男性

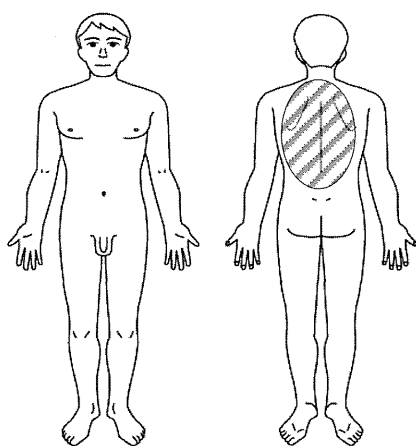
【病態】肝細胞癌

【ターミナル期】ターミナル中期～後期

【転帰】逝去

【鍼灸治療目的】

肩背部の痛みに対して依頼される。



【東洋医学的所見】

脈診：75回/分、脾・腎弦。触診：右内関緊張圧痛、右期門緊張圧痛、右章門圧痛、右太衝緊張圧痛、左交信緊張。るいそう。声は小さい。神経質なところもある。爪白。軽度足背浮腫。肝血虚、腎気虚と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍔鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.6mmを使用。

電子温灸器：e-Qを47±2度×5秒設定に

て使用。

使用経穴には健脾目的に内関、疏肝理気目的に太衝、期門、章門、肩背部の鍔鍼を使用した。

【総括】

本症例は、肩甲間部痛などその日の訴えに対して治療を行った。

患者コメントからも、鍼灸治療を受けていると気持ちいいと言われ、どんなに状態が悪くなっても鍼灸治療を希望された。

これらからも、肩甲間部痛に対しては著効と診断した。また5診目では、不安を語られ、精神的な支えとなりえる可能性があったと考える。

20130023 (No. 73)

【患者】 45 歳、男性

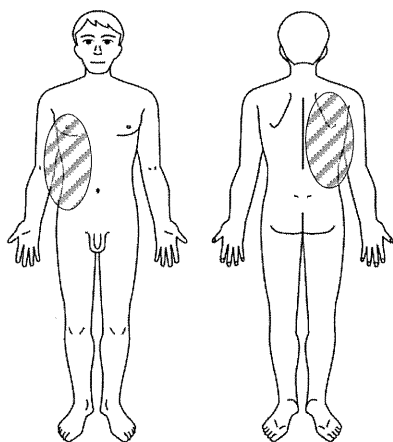
【病態】 肺癌

【ターミナル期】 ターミナル中期～後期

【転帰】 逝去

【鍼灸治療目的】

イライラし、スタッフに声を荒げることもあったためストレス緩和と、右肩～脇腹にかけての痛みに対し、鍼灸治療依頼された。



【東洋医学的所見】

声かけするも、「ああ」「うん」のみ。イライラした様子。

脈診：96 回/分、洪、（左側臥位のため、脈診のみ）触診：右外関緊張圧痛、右後溪～腕骨深部緊張、右胆経浮腫。右臨泣圧痛。肝腎陰虚、（心陰虚）と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径 0.12mm、長さ 15mm（セイリン製 5 分-02 番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍣鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径 0.2mm、長さ 0.6mm を使用。

使用経穴には疏通経絡を目的に外関、内通谷、臨泣を使用した。

【総括】

本症例は右胸脇部の痛みに対して鍼灸治療を介入した。しかし、せん妄があり、言動に安定性がない。また、投薬量も増量されていたため、鍼灸の治療効果があったかどうかは不明である。

20130024 (No. 74)

【患者】66歳、女性

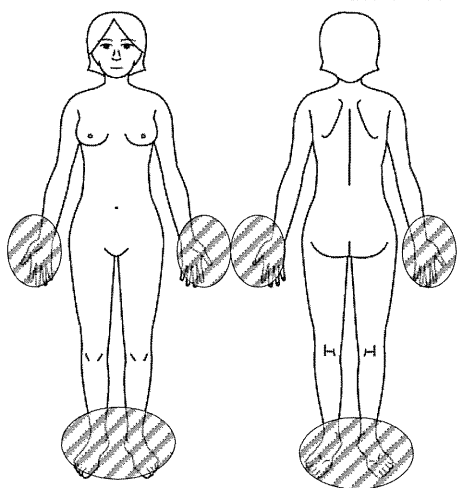
【病態】卵巣癌（不完全手術）

【ターミナル期】ターミナル中期～後期

【転帰】逝去

【鍼灸治療目的】

手足のしびれだけでなく、癌性腹膜炎による腹水貯留に伴う腹部膨満感など、全身調整のため鍼灸治療介入となった。



【東洋医学的所見】

脈診：実、弦、数。四肢熱感。

*しびれの強さ

足底：VAS=87mm、足背：VAS=78mm、掌：VAS=78mm、手指の付け根：VAS=75mm、指先：VAS=70mm。腎虚、肝血虚と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍣鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.6mmを使用。

使用経穴には補腎目的に復溜、補血目的に三陰交、蠡溝、しびれに対し、手足爪甲根部に鍣鍼を行った。

【総括】

しびれに関しては、ほとんど変化がないという事であったが、入院中になり、鍼灸治療後にしびれが一時的に消失した。それらからも、全く効果がないわけではないため、やや有効とした。

全身状態は鍼灸治療後から数時間は楽な状態が続くことから、有効であると診断した。

本症例では、家族やスタッフに言えない思いを鍼灸師に語られており、それをきっかけに話し合う機会を得ることはできていた。鍼灸師がチームに属する事で、より患者の思いを聴き、家族が「あの時、ああしてあげればよかった」などの後悔をしないためにも、家族ケアにも結び付けられる可能性があると考えた。

20130025 (No. 75)

【患者】73歳、男性

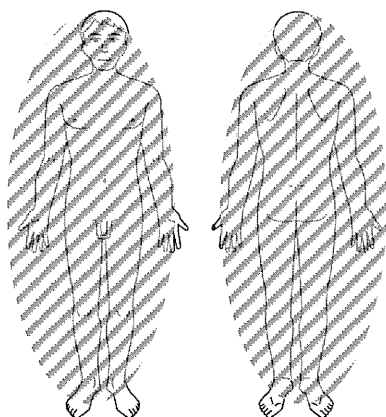
【病態】胃癌 (Stage IV)

【ターミナル期】手術前

【転帰】退院

【鍼灸治療目的】

化学療法再開し、副作用である口内炎の出現により、口内炎の早期回復を目的に鍼灸治療併用となった。口内炎が改善したため、今回の化学療法による副作用予防のため引き続き、鍼灸治療介入となった。



【東洋医学的所見】

口渇あり。脈診：脾・腎弦。舌診：淡白、胖大、嫩舌。下腿浮腫。腎気虚、胃熱と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍣鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.6mmを使用。

電子温灸器：e-Qを47±2度×5秒設定にて使用した。

使用経穴には補腎目的に太溪、口内炎予防のため、内庭、外内庭、俠溪を使用した。

【総括】

本症例は抗癌剤副作用予防に対して行った。症状がでていないため、明らかな効果はわからないが、2診目～3診目に睡眠中のため鍼灸治療介入していない期間では、体調がすっきりしないといったコメントがあり、患者に確認したところ「寝ていても起こして」との事だった。

これら総合的に副作用予防に対しては明らかな症状がでていなかったため、やや有効とした。

1. 緩和ケアチームでの取り扱い症例の治療概要

1-2) 緩和ケアチームでの取り扱い症例の鍼灸治療介入による評価

横西 望

明治国際医療大学鍼灸学部鍼灸学科 基礎鍼灸学講座 研究協力者

明治国際医療大学鍼灸学部鍼灸学科 基礎鍼灸学講座：篠原 昭二、関 真亮、斉藤 宗則、和辻 直

明治国際医療大学 附属病院 外科学教室：糸井 啓純、神山 順

市立福知山市民病院：香川 恵造、川上 定男、羽柴 光起、中村 洋子

【研究要旨】

今回の対象患者の一部には、認知症だけでなく、精神的不安感によって発症したスピリチュアルペインを訴えるケースがあった。スピリチュアルアセスメントシート等の評価方法が用いられているが、認知症やせん妄も併発していたため、使用できなかった。スピリチュアルペインとまではいかなくとも終末期患者の抱える不安・恐怖は大きく、平成 25 年度は鍼灸師の立場から、『患者の声を聴き、信頼を得ることを重点』にして、チーム医療に貢献ができるかを目標とした。

今回、鍼灸治療を受けていない午前、深夜、休日からも患者コメントおよび医師、看護師、医療スタッフ、患者家族のコメントを抜粋し、時系列的に分かりやすくまとめた。平成 25 年 4 月～平成 25 年 12 月までに 25 人（男性 19 人、女性 6 人）、67.8±14.8 歳、疼痛 19 例（癌性：8 例、その他：11 例）、全身倦怠感 4 例、しびれ 5 例、便秘 1 例、その他 10 例を訴えた患者に対して鍼灸治療介入をした。今回、鍼灸治療を受けていない午前、深夜、休日からも患者コメントおよび医師、看護師、医療スタッフ、患者家族のコメントを抜粋した。

ここでは、前項で簡潔に述べた各症例の治療内容等を鍼灸治療およびカルテ記載（一部）内容を含めて詳細に報告する。

【患者】56歳、男性

【既往歴】特記事項なし

【病態】進行性大腸癌

【ターミナル期】ターミナル前期

【現病歴】

進行性大腸癌にて化学療法中である。前回の化学療法退院後より、食欲不振があり、化学療法の副作用にて味覚障害が起こっている。また、昨日の昼より腹痛を自覚、徐々に痛みが増していくこともあり、受診した。オキシコドン 20 mg頓服使用するも軽快せず、腹部全体が張っている感じがある。固定された部位ではなく、数分間隔の周期性で腹部の全体に疼痛がある。化学療法の副作用である下痢を引き起こしており、腸蠕動痛を訴える為、止痢剤を使用した。排便がなくなると腹部張満感により別の痛みが起こっている。そのため、下痢便秘を常に繰り返している状態である。ペインコントロールにはモルヒネ 200mg/日、レスキューにはモルヒネ 0.8ml/h 早送りにて対応していた。

【鍼灸治療目的】

下痢と便秘を繰り返しているため、腸蠕動痛の完全な疼痛コントロールがされていないため、鍼灸治療介入となった。

【東洋医学的所見】

抗癌剤副作用による下痢と止痢剤による便秘を繰り返している。腸蠕動時に強い痛みがある。

脈診：脾滑、一息五至、左行間軟弱、中腕・滑肉門・天枢・関元軟弱。陽明経熱感あり。胸脇苦満。下痢、便秘を繰り返している状態。レスキュー使用後でも、痛みの程度は、Visual Analogue Scale(以下VAS)=36mmであった。脾腎陽虚、肝鬱期待と診断した。

【弁証】脾腎陽虚

【鍼灸介入期間】94日間

【鍼灸治療回数】4回/週、47回

【転帰】逝去

【最終鍼灸治療日～転帰】4日間

【評価】VASまたは、VASが使用できない状況ではNumerical Rating Scale(以下:NRS)を使用していたが、鍼灸治療時はレスキュー使用後であることが多く、評価が取れなかったため、医療スタッフによる印象評価をカルテから抜粋し、採用した。

【鍼灸治療最終評価】

1)腸蠕動痛：やや有効

【治療経過】

4月2日

19:00 下痢が頻回に続いているが、おそらく化学療法の副作用ではないだろうか。本日より、ロペラミド塩酸塩内服開始となっている。以前、ブスコパンで軽減しているため定期服用にて様子を見ている。

19:30 今はNRS=7くらい。レスキューしたらNRS=4程度まで軽減
レスキュー使用：19回/日

4月3日

0:00 寝ていても、痛みで目が覚める。

11:00 食欲低下。
「朝から内服全くできていない。食事も全くとれていない。食欲なくなった」

16:30 日中排便なし。
下痢おさまっており、昨日よりレスキュー使用間隔が伸びてきている。

17:00 鍼灸治療1診目
レスキューを使用したので…今はあまり腹部の痛みはない
本日も下痢あり。腸蠕動時に強い痛みがある。

脈診：脾滑、一息五至

触診：左行間軟弱、中腕・滑肉門・天枢・関元軟弱、陽明経熱感、胸脇苦満。

下痢、便秘を繰り返している状態。

痛み：VAS=36mm→治療後：VAS=26mm

☆治療部位

<鍹鍼>左行間、左内庭、左外内庭

<e-Q>中腕、滑肉門、天枢、関元

18:30 食欲あり(主5割、副8割)
レスキュー使用：17回/日

4月4日

0:30 寝息立てて入眠。

6:30 はあ。寝不足や。(前回のレスキュー使用から)
1時間半くらいたったかなあ。

15:00 鍼灸治療2診目(レスキュー13:40)
13:40にレスキュー使用して、トイレ行ったら下痢でチョビチョビと出ました。

脈診：脾滑、腎微弦

舌診：淡白、舌尖紅、紅点、舌下静脈怒張+

触診：右行間軟弱、左行間・左内庭・左外内庭圧痛、中腕、滑肉門、関元、右天枢軟弱、関元圧痛

☆治療部位

<鍹鍼>左行間、左内庭、左外内庭

<e-Q>中腕、関元、滑肉門、天枢

<円皮鍼>右行間、左大都

23:30 NRS=9、レスキュー使用するも NRS=5

レスキュー使用: 17回/日

4月5日

8:30 昨日、下痢しました。ぼちぼち食べられるようになった。

~右鎖骨化にポート留置~

15:30 鍼灸治療 3診目

今日はちょっとしんどいんだよね。左大都の貼付のみ

☆治療部位

<円皮鍼>左大都

レスキュー使用: 18回/日

4月6日

7:30 昨日は何ともなかったけど、今日は痛みます(ポート部位)

10:30 ちょっと食欲出てきたのでアイス買ってきました。痛いのもレスキューしたら5分後には楽になっています。

13:30 昼はあんまり食べられなかった。

素麺は食べられたけど、便も昼から…そうだね、1回かな。前ほどのひどさはないけど、水様便。下痢持続回数低下しているよう。

レスキュー使用: 13回/日

4月7日

8:30 深夜、1~2時間おきにレスキューあり、夜間も頭数持続しており、熟眠感なし。

12:30 下痢した感じはないけど、その分、張った感じ。

レスキュー使用: 18回/日

4月8日

15:30 レスキューをしてもらおうと、痛みはちょっとマシになるけど、1時間しか持たんなあ。

レスキュー使用後の痛み: VAS=33mm 程度

レスキュー使用: 19回/日

4月9日

9:30 便は丸一日でてない。ガスは出ています。痛みはさっき使ったからマシやけど、痛いです

13:00 ご飯は食べれたけど、やっぱりお腹痛い。

ご飯前に便だしたけど下痢やった。

15:30 鍼灸治療 4診目 (レスキュー15:20)

脈診: 一息六至、滑

痛み: VAS=87mm→治療後: VAS=45mm

☆治療部位

<毫鍼>左大都

<e-Q>関元、天枢、滑肉門

<円皮鍼>左大都

レスキュー使用: 19回/日

4月10日

6:00 レスキューお願い。便2回出た。下痢が。

7:00 気持ち空いたかな?

痛み: VAS=61mm→レスキュー後: VAS=38mm

8:30 今朝排便あって、それ以降は腹の痛みは治まっています。

16:30 鍼灸治療 5診目

投薬により下痢、便秘を繰り返している。

また、治療前後での評価はレスキューの使用時間に影響されるため、印象評価のみで行う

☆治療部位

<毫鍼>左大都

<e-Q>関元、天枢、滑肉門

<円皮鍼>左大都

レスキュー使用: 19回/日

4月11日

16:00 やっぱり(お腹が)動く怖いです。

16:30 鍼灸治療 6診目

ん~たいです。下痢・水様便・・・

脈診: 数(一息六至)、脾弦、肝滑

☆治療部位

<毫鍼>左行間

<e-Q>太白

<円皮鍼>大都

23:00 下痢二回、回数は減っている。

ロペラミド塩酸塩内服し、下痢便低下。

レスキュー使用: 20回/日

4月12日

15:30 鍼灸治療 7診目 (レスキュー14:47)

痛みは落ち着いておりテレビを観覧している。水様便が11:00かな?あった。便は出ました。

脈診: 一息四~五至、脾滑

舌診: 淡紅舌、薄白苔、舌下静脈怒張

☆治療部位

<e-Q+鍹鍼>中脘、滑肉門、天枢、関元

<円皮鍼>太白

レスキュー使用: 18回/日

4月13日

8:00 下痢したので下痢止めください。ドバーッと出た。

9:30 痛みはまだチクチクしてるかな?

レスキュー使用: 19回/日

4月14日

2:30 アーイタタタタ... (NRS=9)

レスキュー使用: 20回/日

4月15日
13:30 下痢していたところ、お腹痛い。1時間経ったらレスキューお願いします。レスキューが待ち遠しい。
フェンタニルクエン酸塩注射液の効果は1時間半。
レスキュー使用:21回/日

4月16日
5:30 今日は調子いいよ。下痢もしてない。
痛み VAS=56mm→レスキュー後:VAS=37mm
10:30 (鍼始まってからどうですか?)
う〜ん、、、あんまり変わらないね。
17:00 鍼灸治療8診目
昨日トイレに行って3〜4回下痢しました。
脈診:肺無力、脾・腎微弦 84回/分
舌診:淡白、舌中乾燥、苔剥落、胖大、嫩舌、舌下静脈怒張
触診:右内関圧痛、右外関圧痛緊張、期門圧痛、右地五会、
左侠溪

☆治療部位
<毫鍼>右内関、右地五会、左侠溪、期門、右章門、左公孫
<円皮鍼>右内庭、右外内庭、右侠溪
レスキュー使用:20回/日

4月17日
5:00 昨日の朝から急に痛みが楽になった。
痛み止めの感覚が伸びているでしょ?お腹の張った感じとお腹の左側をおさえられる様な痛みと同じ程度で痛い。
9:30 今日は調子最悪です。
漢方ですか…うーん。
15:30 鍼灸治療9診目
今、あまり痛いことないかな。
脈診:肝滑、腎微弦、細、弱
舌診:淡白、白膩苔(舌中厚苔)、舌下静脈怒張

☆治療部位
<毫鍼>右期門、右章門
<鍹鍼>左内庭、左外内庭、左侠溪
<e-Q>中脘、滑肉門、天枢、太巨
<円皮鍼>左内庭、左外内庭、左侠溪
※右滑肉門、右天枢は左より熱さ感じず。
レスキュー使用:19回/日

4月18日
8:00 下痢は止まった。でもお腹が張っています。
10:30 昨日から半夏瀉心湯開始。下痢の回数減少。
16:30 便が出なくなってきました…。
17:00 鍼灸治療10診目
訪室時、苦痛表情あり。声掛けすると、レスキュー使用を

希望される。以後閉眼し沈黙。

痛み:VAS=72mm

☆治療部位
<毫鍼>右外関、右内庭、右外内庭、左公孫
<円皮鍼>右内庭、右外内庭、右侠溪
レスキュー使用:19回/日

4月19日
8:30 お腹が張っていたい。
10:00 今日は調子が悪い。便が出ていないと、お腹張った感じがする。(痛み:VAS=66mm)
15:00 昼から下痢やった。
16:00 鍼灸治療11診目
腹の張りがきつい時がある。お腹が動いたら、あっちもこっちも痛い。

脈診:肝実、脾虚
☆治療部位
<毫鍼>右行間
<円皮鍼>右行間、左内庭、左外内庭
レスキュー使用:22回/日

4月20日
10:00 昨日よりはちょっとマシかな?
さっきレスキューしてもらったから痛みは今、これくらいかな?便は朝1回あった。血は出てないよ。鍼灸のところは大丈夫。効果?多少マシなんかな?
レスキュー使用:22回/日

4月21日
13:30 便が出る時、やっぱり痛い。
出ないのもしんどいけど、おならもあまり出ないし、少し張っている。
レスキュー使用:21回/日

4月22日
16:00 お腹はキリキリ痛い。夜も1時間〜1時間半 くらいでレスキューしないと、目が覚めた時に 痛みがつよいから。舌も痺れている。
歯磨きは1回だけしている。
レスキュー使用:21回/日

4月23日
16:30 下痢の量は少なくなったけど、お腹がグルグル痛いです。
18:00 鍼灸治療12診目
さっき、レスキューしてもらいました。
脈診:肝・腎微弦
舌診:暗淡白、湿潤、舌中〜舌根白黄膩苔

☆治療部位

<毫鍼>右期門、右章門、復溜、右臨泣、左太衝

<円皮鍼>左太衝、復溜

レスキュー使用：21回/日

4月24日

10:00 今は痛み大丈夫。さっき（レスキュー）してもらったからね。便は昨日の夕方から出ていない。出すはちょっとずつでている。

17:30 ちょっと、今日は……。発熱のため、鍼灸治療中止

レスキュー使用：22回/日

4月25日

8:00 レスキューをしてください。便が出ない。

14:30 下痢を止めてください。2回出ました。

水です。（ロペラミド塩酸塩2錠使用）

18:00 鍼灸治療13診目

いたたた…今日も下痢でした。下痢の時は痛いです。常に痛いよー。

☆治療部位

<毫鍼>復溜

<鍍鍼>左復溜、左足三里

<円皮鍼>左太衝、左陥谷、左外陥谷、右復溜

レスキュー使用：20回/日

4月26日

9:00 レスキューをお願いします。トイレに座っている時間も長い時あるね。

16:00 鍼灸治療14診目

今日も下痢でした。

訪室時、身体を起こし、TVをみている。

脈診：肝・腎微弦

☆治療部位

<毫鍼>右期門、右行間

<円皮鍼>左内関、左外内庭、右復溜

レスキュー使用：20回/日

4月27日 レスキュー使用：19回/日

4月28日 レスキュー使用：20回/日

4月29日

10:30 下痢はしてないけど、朝軟便があった。

モルヒネに変えてみるって、腸閉塞になるかもって言われたけど、ずっと病院にはおれん。

レスキュー使用：19回/日

4月30日

12:00 すみません。下痢を止めてください。

16:30 鍼灸治療15診目

お腹も変わりません。舌の先はピリピリしてます。

脈診：洪、腎無力

舌診：暗紅舌、舌下静脈怒張、舌尖紅、瘀斑

☆治療部位

<毫鍼>三陰交

<円皮鍼>神門、三陰交、左復溜

17:00 痛い。こんなに痛くなったの初めて。下痢が出てマシになってきた。

レスキュー使用：20回/日

5月1日

15:00 痛みは全くないね。昼ごろに熱があるような感じ

で頭がボーっとしていたけど、今は大丈夫です。

お腹、動いてる？

18:00 鍼灸治療16診目

昨日、あの後すごい痛くなりました。便をしたら治まったけど、初めてでした。

脈診：洪

舌診：紅、舌尖紅、瘀斑、舌下静脈怒張

☆治療部位

<鍍鍼>三陰交

<円皮鍼>左復溜、左三陰交

レスキュー使用：6回/日

5月2日

10:30 うーん。今までで一番調子いいかな？

でも、今度は出なくなりました。ご飯も食べたいけど、食べたからお腹が張るからちょっと控えました。

11:30 さっき半下痢出ました。

17:30 鍼灸治療17診目

訪室時、苦痛表情なく妻とTVをみている。

☆治療部位

<円皮鍼>左三陰交、左外関

レスキュー使用：6回/日

5月3日

16:00 あーでも痛むなあ。お腹が動いている…出した方がすっきりするのかな？日中から下痢続いており、腸蠕動による痛みあり。午後より回数増加

レスキュー使用：11回/日

5月4日

16:00 （フェンタニルクエン酸塩注射液）減らしてから、ボーっとする感じはなくなりました。

レスキュー使用：19回/日

5月5日

5:30 塩化モルヒネ：1.8ml/h

フェンタニルクエン酸塩注射液：1.2ml/h
レスキュー：フェンタニルクエン酸塩注射液：3.7ml/h に変更

11：30 塩化モルヒネ 1.8ml に変更になってからレスキュー頻回になっているため、減らした。
レスキュー使用：20 回/日

5月6日
10：30 下痢はさっきありました。昨日は痛くて1時間ごとにレスキューしていたから眠いです。
22：30 テレビ見ているが、苦痛表情持続。
レスキュー使用：21 回/日

5月7日
17：00 午後からレスキュー使用 40 分経過後から腹痛あり。
痛み：VAS=64 mm。ウトウトされる。
17：00 入眠中のため、鍼灸治療中止
レスキュー使用：17 回/日

5月8日
7：30 お腹が張ってしんどい。
下痢あるも腹部膨満感による腹痛あり。
14：00 ご飯はちょっとだけ食べた。下痢止めものんだ。
痛み：VAS=42 mm。
17：00 鍼灸治療 18 診目
ちょっと下痢がですね…。
脈診：腎渋
舌診：舌尖紅、舌下静脈怒張
☆治療部位
〈毫鍼〉三陰交、右足三里、復溜
〈円皮鍼〉右内庭、右外内庭、左復溜
レスキュー使用：21 回/日

5月9日
15：00 食べた後は痛いけど、食べるのは唯一の楽しみです。
16：00 鍼灸治療 19 診目
あ…はい。。訪室時、苦痛表情あり。
脈診：腎渋、肝無力、脾弦
☆治療部位
〈毫鍼〉右三陰交、左復溜、左太溪
〈鍤鍼〉右公孫
〈円皮鍼〉右外関、左太溪、左公孫
※治療中から退室時まで入眠。
レスキュー使用：22 回/日

5月10日 鍼灸治療中止
レスキュー使用：20 回/日

5月11日
19：00 便は出ていないけど、腸が動くと痛い。痛み：VAS=54mm
レスキュー使用：19 回/日

5月12日
8：00 イタタ・・・便が出てお腹が痛い。痛み：VAS=68mm
レスキュー使用：22 回/日

5月13日
16：00 2時間くらい寝ていたけど、また、お腹がしくしく。最近硬いんで。漢方は飲んでない。便が硬いとえらいんや。
痛み：VAS=35mm
18：30 便の形があるのが、ガスと一緒に出了。
痛み：VAS=74mm
レスキュー使用：20 回/日

5月14日
10：30 今朝はお腹が痛かった。便が出る前から痛くて、出てからも痛かった。(排便あり)
16：30 鍼灸治療 20 診目
暑い。今日は暑いね～。トマトを食しながら TV を観ている。
脈診：細、無力、腎微弦、数（一息七至）
☆治療部位
〈毫鍼〉右期門、左復溜
〈鍤鍼〉左大敦、左内庭、左外内庭
〈円皮鍼〉左外関、左外内庭

5月15日
10：30 便…下痢が出ました。
痛み：痛み：VAS=24mm
15：30 レスキュー間隔 1 時間半～2 時間ほど日中でも空いている。
16：30 鍼灸治療 21 診目
今日は、別のところが痛いんですよ（別のところ？）臍がね、麻酔してもらったんだけど痛くて。レスキューは 1 時間半効いています。
脈診：細、弦、腎無力
☆治療部位
〈毫鍼〉右外関、左復溜
〈鍤鍼〉左行間、左内庭、左外内庭
レスキュー使用：16 回/日

5月16日
16：00 排便 2 回ありました。お臍の傷は痛くないよ。
17：00 鍼灸治療 22 診目
苦痛表情なし。
脈診：脾渋、
舌診：紅舌、瘀斑、黄膩苔、舌下静脈怒張
☆治療部位